



未来創造科（8年生）における実践事例

教育学部附属義務教育学校後期課程 教諭 鎌田真由美

本校の学校設定科目、未来創造科では、9年間の「自分と地域、職業、世界との関わり」についての体験的な学習を通して、自分が本当に「住みたいまち」とはどのような場所なのかについて考えさせることを目指しています。カリキュラム上、第8学年において生徒に身に付けさせたい能力は○地域の課題を見いだし、その解決につながる社会参画の方法を検討し、実践した成果を発信することができる。（思考力・判断力・表現力等）○社会の形成者であることを自覚し、他と共によりよい社会の実現を目指して行動しようとしている。（学びに向かう力、人間性等）となっています。このことを踏まえ、令和3年度の第8学年では、生徒たちが複数の職場を訪問し、そこで働く人々から、地域の魅力とその生かし方や、地域の課題とその解決のための取組を聞き取る活動を行いました。その内容を自分なりに分析・考察することで、「住みたいまち」についていろいろな視点からとらえられるようになり、9年生でのカテゴリー別の学習活動に向けて、意欲を高めることができました。

